

「コロナ禍でもつながりを絶やさない」 地域福祉の推進に取り組む宇部市社会福祉協議会の5つのアクション

近年、地域生活課題が複雑化・複合化しています。少子高齢化と人口減少の進行、単身世帯の拡大、地域や家族、企業等の共同体機能の弱体化が進むなか、さまざまな生きづらさ、暮らしづらさを抱える人、また、望まない孤独・孤立の状態にある人が増加しており、コロナ禍において課題は一層深刻化しています。

そのような中、本会は、コロナ禍を通じて顕在化し、これまで以上に厳しさを増している地域生活課題に正面から向き合い、解決に取り組んでいかなければなりません。

コロナ対応が本格化した令和元年度末から本会が取り組んできたこと、そしてコロナ禍における地域共生社会の実現に向けた今後の取り組みの方向性をまとめています。

アクションに共通するキーワードは「**守る**」です。

地域福祉部門 「つながり」

新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出やイベントの自粛が必要とされ、これまでのような地域福祉活動やボランティア活動を進めていくことが困難な状況におかれました。このような状況下でも地域や人との“つながり”を守っていくために、地域福祉部門では従来の実施方法の工夫や新たな取り組みの創出を行いました。

- ・ サロン活動等における感染対策ガイドラインの作成・周知
- ・ オンラインの活用による新たな地域福祉活動展開の提案

生活支援部門 「生活」

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、人や地域のつながりの喪失の危機にとどまらず、経済活動の自粛に伴う失業や減収等で生計の維持が困難になる人も急増しました。令和2年3月から行われた生活福祉資金の特例貸付による相談窓口の開設など生活支援部門では、“生活”を守っていくための取り組みに注力してきました。

- ・ 生活福祉資金の特例貸付相談窓口の開設及び「生活相談サポートセンターうべ」との連携による生活困窮者の生活全般の相談支援
- ・ 判断能力が不十分な方の権利を擁護する地域福祉権利擁護事業や成年後見制度などの利用者がコロナ禍においても安心・安全な生活を維持できるための支援活動

子育て支援部門 「子育て家庭の安心・安全」

子育て支援部門では、“子育て家庭の安心・安全”を守っていくために、必要な感染対策を徹底しながら、子育て家庭が安心して事業（学童保育・子育てサークル）を利用できるように取り組みました。

- ・学校の臨時休業などの緊急対応、安定した事業継続による子どもの居場所の確保、子育て家庭の支援
- ・必要な感染対策を徹底した保育環境の整備

コミュニケーション支援部門 「情報」

新型コロナウイルス感染拡大により、日常ではマスクの着用が当たり前の風景となりましたが、聴覚障害者のコミュニケーションは手話言語と口の動きと表情などから総合的に相手の話を理解しているため、マスクの着用による聴覚障害者の不安の拡大が新たな課題となりました。また、日々大切な情報が更新されていくなか、コミュニケーション支援部門では“障害のある方々に必要な情報を届ける”ことに取り組んでまいりました。

- ・必要な感染対策を徹底した、手話通訳や手話通訳者の派遣
- ・FAX、メール等を活用した障害のある方々への情報発信

法人運営部門 「事業継続」

コロナ禍にあって、本会の地域福祉の取り組みは福祉の支援を必要とする方々に支援を継続していくための新たな支援のあり方が問われました。また、本会は直接支援を担う職員やその家族等の健康と安全を守る努力を続けながら、多様な支援を必要とする方々に対し、“様々な制約を乗り越えて福祉サービスを提供し続け”なければなりません。

- ・法人全体の感染対策を徹底し、利用者又は職員が感染した場合に備えたBCP（事業継続計画）を策定
- ・リモートワーク（在宅勤務）の環境整備、試行実施

今後の「With コロナ」社会における取り組みの方向性

コロナ禍における各部門の取り組みをふまえ、今後の取り組みの方向性を次の2点にまとめました。

○デジタル化の加速

地域福祉活動におけるデジタル機器の活用による新しい活動方法の定着、法人内の情報のデジタル化による市民の利便性の向上に取り組んでまいります。

○新たな地域生活課題への対応

生活困窮や孤立、必要な情報の入手など、コロナ禍にあって従来、福祉に関わりがなかった人々への支援も行われています。誰もが自分らしく暮らせる地域社会の実現に向け、関係機関とのネットワークを活かした重層的な支援活動の展開を進めてまいります。